



# 環境省が行う理解醸成活動の取組

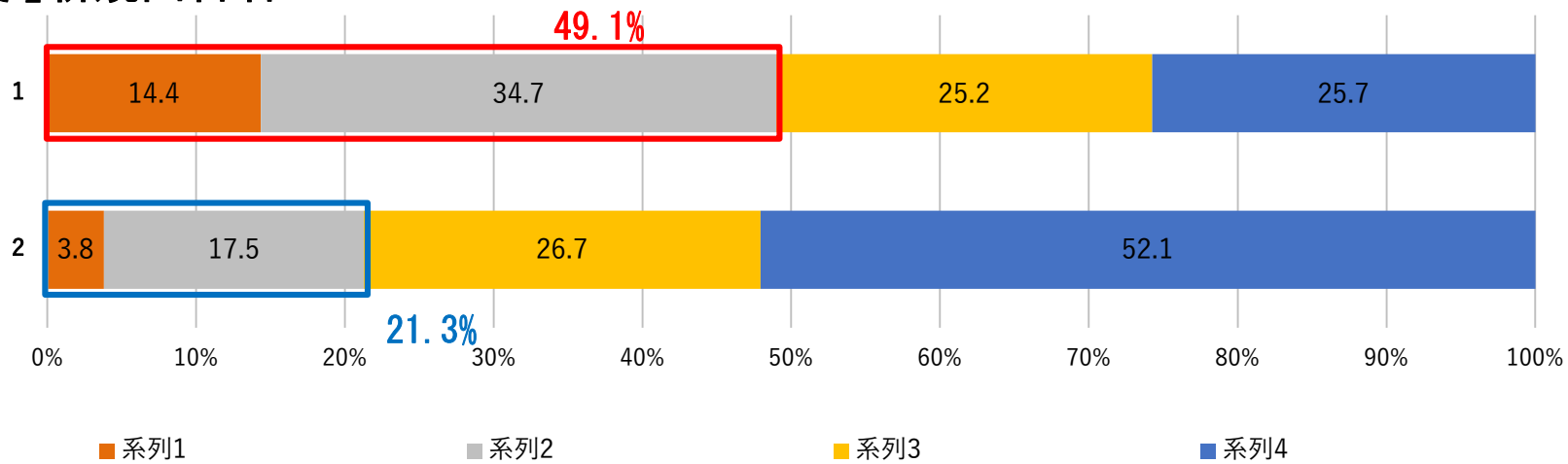
環境省 環境再生・資源循環局

2024年9月

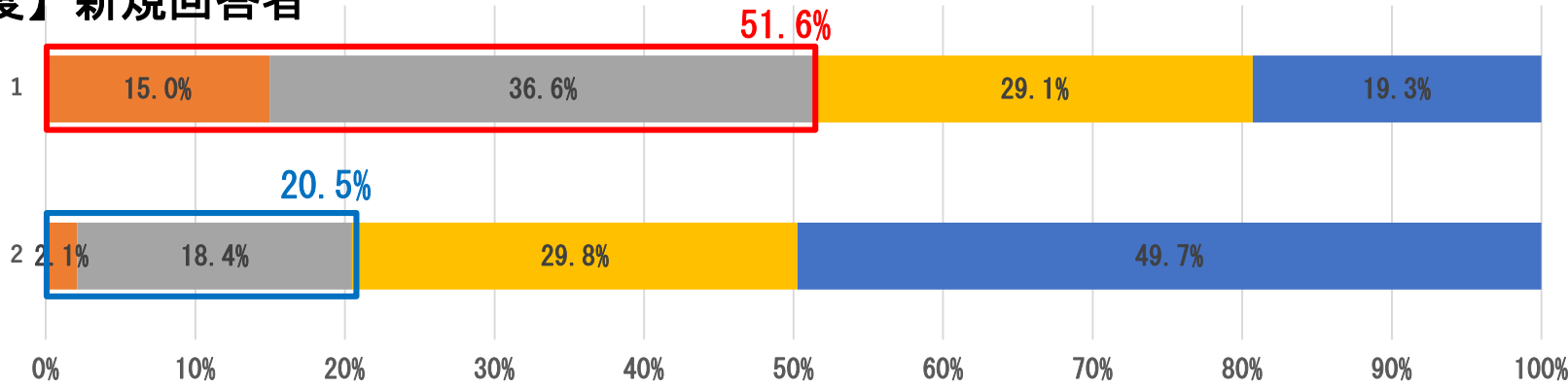
Q1：あなたは、福島第一原子力発電所事故後の除染作業によって生じた土壌（以下、「除去土壌」という）等が中間貯蔵開始後30年以内（2045年の3月まで）に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。

- 「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」を合わせた回答は、福島県では約50%、福島県以外でも約20%となっており変化は見られない。

【令和5年度】新規回答者



【令和4年度】新規回答者



昨年度の理解醸成等の取組状況について



# 理解醸成等の取組状況（一覧）

（※）本資料の後半に参考資料として掲載

- （１）飯舘村長泥地区における実証事業の広報
- （２）全国的な理解醸成活動
  - ①「対話フォーラム」の開催※
  - ②除去土壌を用いた鉢植え等の設置
  - ③大学生や高校生等を対象とした講義等
  - ④車座対話の試行的実施
- （３）環境再生ツーリズムの推進※
- （４）広報誌等の掲載（環境省広報誌）※
- （５）情報発信
  - ①WEBメディアとの連携による情報発信
  - ②SNS等を活用した情報発信
  - ③各種イベントにおける福島的环境再生等の紹介
  - ④「福島、その先の環境へ。」シンポジウムの開催
  - ⑤福島的环境再生等に関する各種媒体の活用※
- （６）国際的な情報発信



# (1) 飯舘村長泥地区における実証事業の広報

- 飯舘村長泥地区における環境再生実証事業について、再生利用の必要性・安全性等に関するご理解を深めるため、現地視察の受入れや一般の方向けの現地見学会を実施しているところ。
- また、実証事業の取組や長泥地区の今を知っていただけるよう、8月よりX(旧: Twitter) を開設、情報発信を実施しているところ。
- 再生利用の理解醸成の拠点となるよう、更なるコンテンツの整備等も検討。

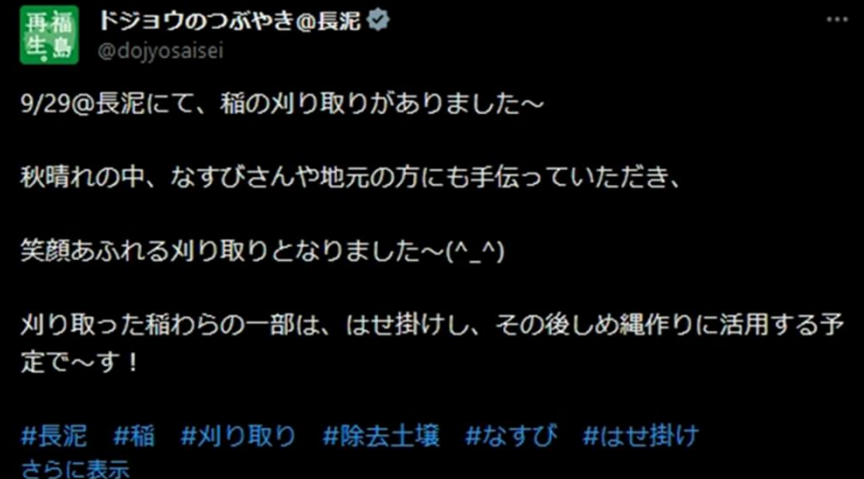
## 現地視察・一般の方向けの現地見学会



### <参加者数>

一般向け見学会 506名 (令和3年7月～令和6年7月)  
視察者数 495名 (令和6年度(7月末時点))

## SNSの活用 (Xの運用)

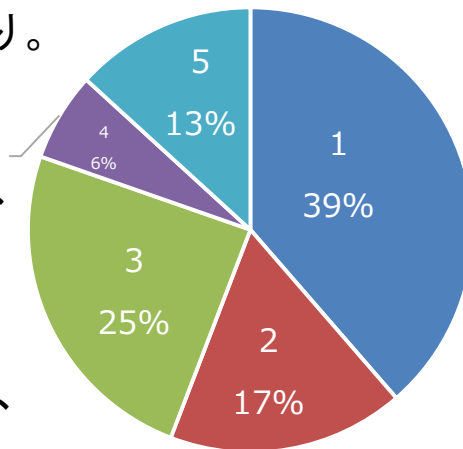


# (参考) 長泥地区環境再生事業の視察対応

昨年度はこれまでのべ1228名の視察対応を行った。視察者の例は以下の通り。  
(2024年2月末までの集計結果)

## <主な視察>

- 行政機関：経済産業省、復興庁、農林水産省、福島県、栃木県、飯舘村、福島市、那須塩原市、那須町、双葉町行政区、浪江町、白石市 等
- 高校生：安積高校・福島高校・都立戸山高校、須賀川桐陽高校、白河高校、二本松実業高校、磐城桜が丘高校
- 大学生：福島学院大学、福島大学、長崎大学、（政策研究大学院大学）、慶應義塾大学、青森大学、中央大学 等
- その他：IAEA、ウクライナ国農業政策食料省、台湾公共放送、ICRP、スウェーデン大使館 等



視察者の内訳について



須賀川桐陽高校・白河高校  
(2023年10月8日)



スウェーデン大使館関係者  
(2023年11月15日)

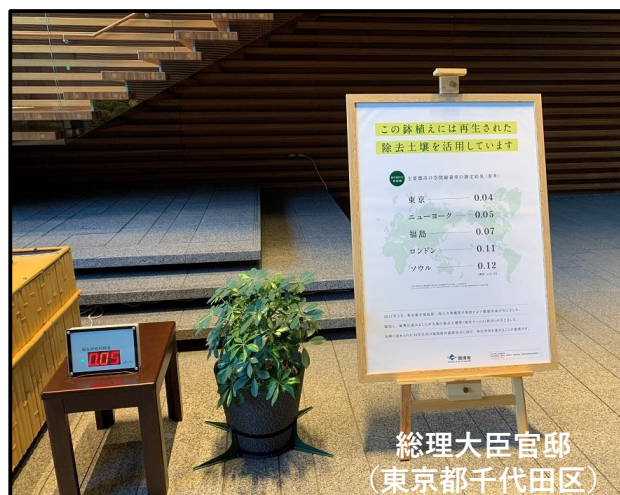


中央大学  
(2023年11月20日)

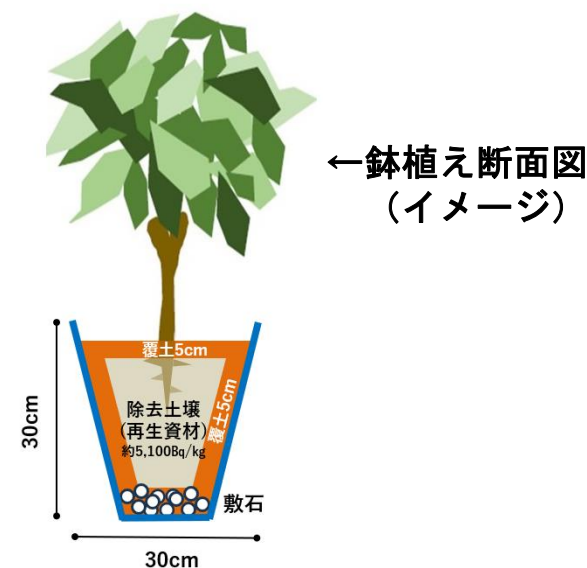


## (2) 全国的な理解醸成活動 ②除去土壌を用いた鉢植え等の設置

除去土壌を用いた鉢植えを、これまで総理大臣官邸、関係省庁、自民党本部、公明党本部、環境省関連施設（新宿御苑、国立環境研究所等）に設置し、23施設40個となっている（2023年2月末現在）。2022年3月には除去土壌を用いたプランターを、環境本省の正面入口前に設置した。



▼2022年3月には、除去土壌を入れたプランターに花を植えて設置。





## (2) 全国的な理解醸成活動 ③大学生や高校生等を対象とした講義等

- ・ 除去土壌の再生利用等の全国的な理解醸成として、全国の大学生や高校生などを対象とした講義を実施。
- ・ 令和5年度は、集中講義方式やゼミ方式、Web講義などを取り入れ、2024年1月末現在で約50の大学・高専等で講義を実施。約100コマに相当する講義に約1550名の学生が受講。
- ・ また、福島県内外の高校等を対象とした環境再生事業に係る出前授業や長泥地区環境再生事業等に係る現地見学会についても実施しているところ（令和4年度は5件、令和5年度は5件）。

■2023年6月 九州大学での講義の様子



■2023年11月の福島県立二本松実業高校での講義・現地見学の様子



■2023年11月23日～11月25日  
現地見学ワークショップの様子

■2023年8月の安積高校・福島高校・戸山高校  
講義・現地見学の様子

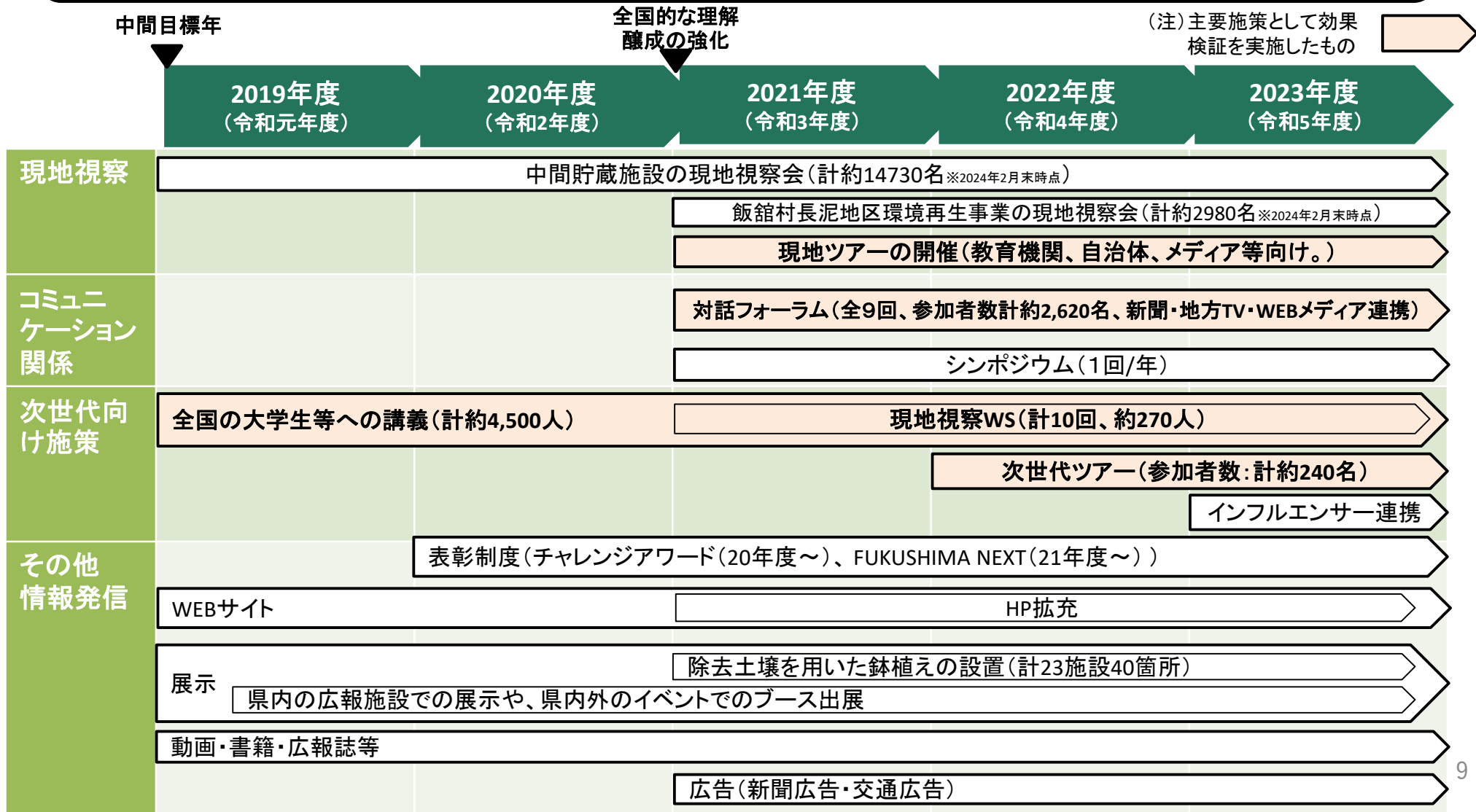


飯舘村長泥地区環境再生事業エリア

中間貯蔵施設

# 参考：これまでの理解醸成等の取組

○技術開発戦略の中間目標年以降、まずは環境省メディアを中心とした情報発信からスタートし、全国的な理解醸成の施策の強化、理解醸成の重要な対象への取組強化等を実施。特に、主要施策については効果検証を実施。

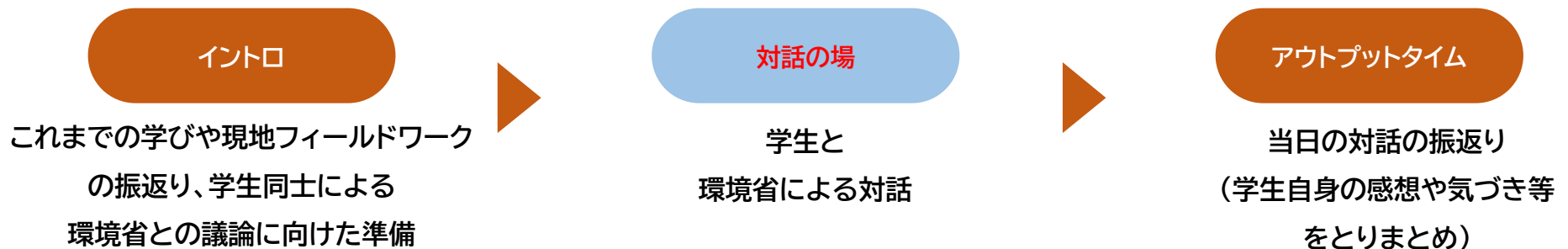


## (2) 全国的な理解醸成活動 ④車座対話の試行的実施

- 対話フォーラムでは、全9回を通し、多くのご質問・ご意見をいただき、対話を重ねることで、除去土壌や福島の問題に関する参加者の皆さまのご理解を深めていただくことができた。
- 一方で、令和5年度のWEB調査結果では、再生利用の必要性・安全性に係る理解度の向上が引き続き課題となっており、また、対話フォーラム等の施策間の効果検証結果を踏まえると、県外最終処分や再生利用に係る理解醸成を進めるためには、より双方向のコミュニケーションが重要。
- このため、本課題に対して、より多くの方にご理解を一層深めていただき、更には、身近な方等へ情報発信もしていただけるよう、対話フォーラムで得られたご質問・ご意見等を参考にしつつ、例えば対話のターゲットやテーマ、対象地域等も検討しつつ、より良い対話の取組を展開していく。
- その一環で、次世代を対象とした車座対話を試行的に実施することを予定。
- 具体的には、これまで県外最終処分を始めとした環境再生に関わる課題を学び、現地フィールドワークに参加した学生と、環境省の実務担当者との間で、この課題について対話を深めるイベントを、3月末に開催することを予定。

※自由闊達な議論の確保等の観点から、当日は非公開とするが、実施結果については、本CT等にご報告させていただくとともに、当日の様子や参加した学生のメッセージ等を紹介する動画の作成・発信等も検討。

### <進め方のイメージ>





## (5) 情報発信 ①WEBメディアとの連携による情報発信

- ・若い世代の登録者の多いNewsPicks Brand Designと連携したイベントを開催（現地参加者の約6割が40代以下）。また、当日参加者のうちアンケート回答者の約8割が、県外最終処分や再生利用への理解が深まったとの回答。

### 「NewsPicks Brand Design × 環境省オンライン&リアルイベント 「福島から学ぶ。地方創生に必要な視点」



■日程：2023年12月19日（火）18:00～21:10

■登壇者：

～KEYNOTE登壇者～

MODERATOR

木下 斉 氏（一般社団法人エリア・イノベーション・  
アライアンス代表理事、内閣府地域活性化伝道師）

SPEAKER

太田 直樹 氏（株式会社New Stories代表、Code for Japan理事）

高橋 大就 氏（一般社団法人「NoMAラボ」代表理事）

和田 智行 氏（株式会社小高ワーカーズベース 代表取締役）

～TALK SESSION登壇者～

MODERATOR

開沼 博 氏（東京大学大学院情報学環 准教授、  
東日本大震災・原子力災害伝承館 上級研究員）

SPEAKER

太田 直樹 氏（株式会社New Stories代表、Code for Japan理事）

小山 良太 氏（福島大学 食農学類 農業経営学 教授）

高村 真央 氏（株式会社アルファドライブ

株式会社NewsPicks for Businessイベントunitリーダー・  
コンテンツエディター）

中野 哲哉（環境省環境再生・資源循環局参事官）

■参加者数：

会場参加者：66名

オンライン参加者：148名



アーカイブ動画配信中→

## (5) 情報発信 ②SNS等を活用した情報発信

- ・全国的な理解醸成に向けて、除去土壌を始めとする福島の問題について、知らない又は関心のない層への情報発信の強化への取組の一つとして、Youtuberと連携し、SNSを活用した情報発信を企画。年度末にかけては更なるYoutuber企画・交通広告・新聞広告の実施も検討中。
- ・さらに、再生利用や最終処分に係る技術的な検討成果も踏まえつつ、環境省からの正確な情報発信を図るため県外最終処分や再生利用に係る主な疑問・質問等について、環境省のX（旧：Twitter）を通じて、今後投稿を開始する予定。

### (参考) Youtuber（ドントテルミー荒井氏）との連携企画

- ・社会問題をテーマとした Youtuberのドントテルミー荒井氏による動画作成。
- ・公開：2023年11月3日（金）
- ・視聴数：25万回超



▶ <https://www.youtube.com/watch?v=qxQRq16Hv2s>

### (参考) X（旧：Twitter）での投稿テーマ例

- 除去土壌ってなに？
- 中間貯蔵施設ってなに？
- 放射線ってなに？ベクレルとシーベルトって何が違うの？
- なぜ県外最終処分するの？
- なぜ再生利用するの？
- 再生利用は安全なの？

## (5) 情報発信 ③各種イベントにおける福島環境再生等の紹介

- ・各地でのイベント等に出展し、福島環境再生の状況や除去土壌等の再生利用・福島県外最終処分に向けた取組、環境先進地域を目指した未来志向の取組等について紹介。

### 新宿御苑「GTFグリーンチャレンジデー」(東京)



### ■令和5年度における出展事例

- ・ぴあミュージックフェス(東京)
- ・LIVE AZUMA(福島)
- ・「福島、その先の環境へ。」展(東京)
- ・ふれあいフェスタ2023(東京)
- ・第4回「福島SDGsマルシェ」(東京)
- ・GTFグリーンチャレンジデー(東京)
- ・ふれあい広場2023(ラジオ大阪主催)(大阪)
- ・長崎大学学園祭(長崎)等

福島県内外の音楽ファンが集まるイベントで福島での環境再生の取組等に関する展示を実施。

### ぴあミュージックフェス(東京)



### LIVE AZUMA(福島)





## (5) 情報発信 ④「福島、その先の環境へ。」シンポジウムの開催

- ・ 令和4年3月12日、東日本大震災・原発事故の発生から11年が経過することを契機とする「福島、その先の環境へ。」シンポジウム2022を開催。
- ・ 令和5年3月12日にも「福島、その先の環境へ。」シンポジウムを開催し、今年度は令和6年3月10日に開催予定。
- ・ これまでの環境再生事業を振り返るとともに、若者をはじめとする県内外の方々と福島未来に向けたメッセージを発信。

### 「福島、その先の環境へ。」シンポジウム2022

(2022年3月)

基調講演



環境再生事業の振り返り



パネルディスカッション



### 「福島、その先の環境へ。」 シンポジウム2023年3月12日

環境再生事業の振り返り



次世代ツアー活動報告



チャレンジワード受賞者  
によるプレゼンテーション



トークセッション  
「いま福島について知り、伝えたいこと」

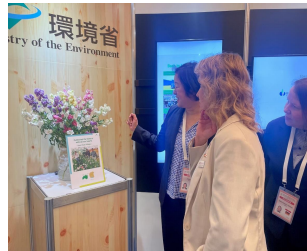
## (6) 国際的な情報発信

- ・ G7サミット及びCOP28ジャパン・パビリオンにおけるブース展示、ならびにIAEA総会などの国際会議や二国間での対話等の場を通じて、世界各国からの多くの会合参加者に環境再生や復興の進む福島の情報発信を実施。また、海外メディア向けの中間貯蔵施設等の現地視察会の開催を実施。
- ・ IAEAとの専門家会合において、除去土壌の再生利用・最終処分の技術的事項や理解醸成等のあり方に関して議論（第1回：2023年5月（東京・福島）、第2回：2023年10月（ウィーン）、第3回：2024年2月（東京））。

### G7サミット・COP28 におけるブース展示



G7サミット  
（広島）



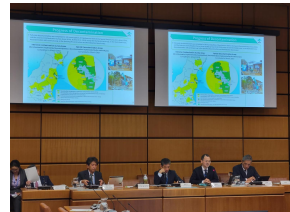
G7  
気候・エネルギー・  
環境大臣会合  
（札幌）



COP28(ドバイ)



### 国際会議等



IAEA総会  
（2023年9月、ウィーン）



ICRP訪問  
（2023年11月、福島）



スウェーデン使節団訪問（2023年11月、東京・福島）



放射性廃棄物に関する  
IAEA国際会議  
（2023年11月、ウィーン）



日英原子力年次対話  
（2023年12月、ロンドン）

### IAEA専門家会合



第1回専門家会合  
（2023年5月、長泥再生利用実証事業エリア）

### 海外メディア向け現地視察会

2024年2月に開催した海外メディア向け現地視察会では、アメリカ、フランス、スイス、シンガポール、カタールの5ヵ国から6社6名に参加いただいた。



▲中間貯蔵施設での説明と取材の様子

# 参考



## (2) 全国的な理解醸成活動 ①「対話フォーラム」の開催

福島県内で発生した除去土壌等の30年以内県外最終処分を実現するため、減容・再生利用の必要性及び安全性等について全国での理解醸成活動を抜本的に強化。その取組の一環として、一昨年度より対話フォーラムを開催し、通算9回目の対話フォーラムを東京都にて令和5年8月19日（土）に開催した。



2023年8月19日  
対話フォーラム（東京）の様子

これまでに合計9回開催。

対話の様子はYouTubeにて公開中。

＜これまでの開催実績＞

- ・第1回 2021年5月23日 オンライン配信
- ・第2回 2021年9月11日 オンライン配信
- ・第3回 2021年12月18日 名古屋
- ・第4回 2022年3月19日 福岡
- ・第5回 2022年7月23日 広島
- ・第6回 2022年10月29日 高松
- ・第7回 2023年1月21日 新潟
- ・第8回 2023年3月18日 仙台

### 第9回

■日程：2023年8月19日（土） 14:00 ～ 16:00

■会場：品川グランドセントラルタワー3階 THE GRAND HALL

■登壇者：

西村環境大臣、前佛環境再生・資源循環局長、高村 昇（長崎大学教授）、佐藤 努（北海道大学大学院教授）、開沼 博（東京大学大学院准教授）、政井 マヤ（フリーアナウンサー）、中野美奈子（フリーアナウンサー）、吉田 学（一般社団法人 HAMAD00RI13 代表理事）、遠藤 瞭（大学院生 東北大学工学研究科量子エネルギー工学専攻）、なすび（福島環境・未来アンバサダー）

■参加者数：

会場参加者：67名 オンライン参加者：161名  
YouTube同時最大視聴者数：162名  
会場・オンライン合わせて、  
194件の御意見・御質問をいただいた。

アーカイブ動画配信中→



### (3) 環境再生ツーリズムの推進（次世代向け）

#### 福島、その先の環境へ。ツアー2023



- ・「福島の今と未来を伝えよう」と、全国から集まった若者が復興の現状や福島県が抱える課題を見つめ直し、次世代の視点から情報を発信することを目的として、昨年度よりツアーを開催。今年度は、9月1日から3日に実施（参加者数：学生106名 社会人24名）。
- ・また、同ツアーに先行し、同世代への波及力を期待してZ世代マイクロインフルエンサー10名程度でプレツアーをTOKYO MXと連携して開催。テレビ放映※とインフルエンサー投稿による若者への興味・関心向上がねらい。

※TOKYO MX「堀潤モーニングFLAG」の番組内で、ツアーの様子を放映し、復興の現状や除去土壌を始めとした福島の課題について紹介。



長泥地区環境再生事業エリア



中間貯蔵施設

#### 有識者ツアー

除去土壌等の再生利用・福島県外最終処分等に対する理解醸成等を目的として、飯舘村の長泥地区の再生事業に携わっている万福裕造氏を中心に、全国の大学のネットワークを活用して、学生を集め現地見学・ワークショップを実施。



長泥地区環境再生事業エリア見学の様子（昨年度）

### (3) 環境再生ツーリズムの推進（他省庁との連携）

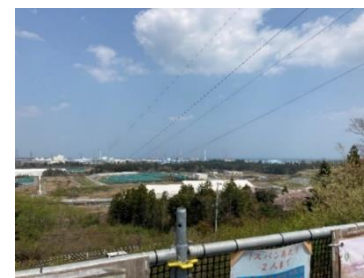
福島復興に向けて、福島第一原発の廃炉や中間貯蔵施設の状況を国内外の多くの方々に知っていただくことが重要。こうしたことから、より多くの方に両施設をご覧いただく機会を設けるため、中間貯蔵施設と東京電力福島第一原子力発電所 廃炉資料館の連携見学ツアーを開始。

#### ○ 中間貯蔵施設軸パッケージ

##### ➤ 廃炉資料館の見学後→中間貯蔵施設の見学

東京電力の社員が中間貯蔵施設内の福島第一原発を遠望できる高台において、福島第一原発の現状について説明します。

※ 実施曜日：火曜日、木曜日

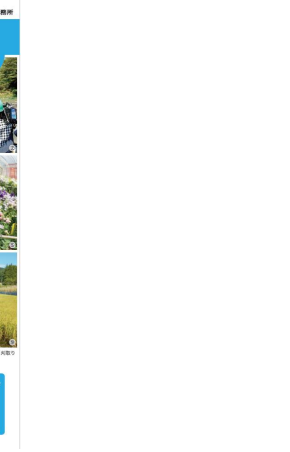


| 行き先                                            | 所要時間                 | 内容                                               |
|------------------------------------------------|----------------------|--------------------------------------------------|
| 東京電力廃炉資料館<br>〒979-1111<br>福島県双葉郡富岡町中央3丁目58     | 11:30より<br>開始30分～60分 | ・ 震災・原子力災害の全容説明<br>・ 廃炉の現状・ALPS処理水の説明            |
| (移動)                                           | 20分                  |                                                  |
| 中間貯蔵工事情報センター<br>〒979-1302<br>福島県双葉郡大熊町小入野向畑256 | 20分                  | ・ 中間貯蔵施設の概要説明<br>・ 見学手続き                         |
| 中間貯蔵施設視察                                       | 13:30～<br>60分        | ・ 土壌貯蔵施設を中心に見学<br>・ サンライトおおくまからの展望と福島第一原発についての説明 |
| (終了)                                           | 計130～160分            |                                                  |



# (4) 広報誌等の掲載(環境省広報誌)

- ・ 環境省の広報誌「ふくしま環境再生Vol. 29」2023年10月号の特集「飯舘村長泥地区の未来へ(Part4)」では、飯舘村長泥地区環境再生事業の現状や見学会について、見学会を通しての理解醸成活動等を取り上げた。
- ・ 2023年10月に行われた「第15回飯舘村長泥地区環境再生事業運営協議会」の内容をよりわかりやすく知っていただこうと「運営協議会便りVol.6」を発行した。



## (5) 情報発信 ⑤福島環境再生等に関する各種媒体の活用

- ・ 福島環境再生や環境先進地域を目指した取組などについて、コンテンツの充実や表彰制度・広告展開等を推進。

### 動画「TO KNOW TO TELL」(2022年4月公開)

- ・ 除去土壌等の福島県外最終処分に向けて、世代を超えて、除去土壌について伝え、知る、そして考えるため、環境再生事業に関する現地でのフィールドワークやワークショップに参加した学生のメッセージ等を紹介する動画。

▶<https://www.youtube.com/watch?v=Ymap8jUdgPw>



### 小島よしおと一緒に福島を学ぼう (2022年8月～)

- ・ 福島第一原子力発電所の事故から11年。復興に向けた福島の大きな課題の一つである「除去土壌」について、人気お笑い芸人「小島よしお」が「聞く」「見る」「考える」を通して、分かりやすい言葉で伝えていく。

▶<https://kankyosaisei.env.go.jp/next/movie2022/>



▲第1回：環境省本省で環境再生事業について説明を受ける

▲第2回：実際に現場（飯館村長泥地区環境再生事業実証エリアと中間貯蔵施設）を見学



◀第3回：学んだことを自ら大学の講義で発信！



# (5) 情報発信 ⑤福島環境再生等に関する各種媒体の活用

- ・ 福島環境再生や環境先進地域を目指した取組などについて、コンテンツの充実や表彰制度・広告展開等を推進。

## 動画「福島、その先の環境へ。」(2021年3月公開)

- ・ 東日本大震災・原発事故から10年間、福島県で行われてきた除染、中間貯蔵施設事業や、除去土壌等の今後について紹介。
- ・ 全国各地で開催する対話集会等で活用。

▶ <https://kankyosaisei.env.go.jp/jigyo/news/20210313.html>



## チャレンジ・アワード (2020年度～)

- ・ 福島にゆかりや関心のある若い世代の方々を対象に、福島のこれまでの振り返りと、「福島をこう変えたい」、「福島がこうなってほしい」という復興や未来、希望に関するアイデアや想い、環境に関する取組の提案、すでに取り組んでいる活動の紹介等についてまとめた作品を募集。



▶ <https://kankyosaisei.env.go.jp/next/award/>

## 書籍「福島環境再生100人の記憶」

- ・ 様々な立場で環境再生に関わった方や地域の復興に取り組まれてきた方など、計100人(組)のお話を収録。
- ・ 震災を体験し、復興に向けて奮闘し続ける方々の記憶と、これからの思いを語っていただいた。



▶ [https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/20210219\\_01.html](https://fukushima-mirai.env.go.jp/activity/article/20210219_01.html)

## FUKUSHIMA NEXT (2021年度～)

- ・ 福島において、環境の視点から地域の強みを創造・再発見する未来志向の取組を実施する方々を県内外の様々なメディアで発信。



FUKUSHIMA NEXT 2022年3月新聞広告

FUKUSHIMA NEXT 2023年12月新聞広告

▶ <https://kankyosaisei.env.go.jp/next/evolution/next/>



**(参考)**  
**今年度の理解醸成等の実施計画等について**

## (参考) 課題

### ○ 再生利用・最終処分具体化に向けては、引き続き認知度・理解度の向上が課題。

→ 技術的な検討成果が出てくるまでは参加型の情報発信・理解醸成施策を中心に展開。一方で、技術的な成果がとりまとまるフェーズ以降は、最終処分・再生利用の必要性・安全性等の認知度・理解度向上に向けて、ALPS処理水等の他の広報事例も参考にしつつ、全国規模の広報施策等より多くの方にリーチが可能な方策の検討も必要ではないか。

※ 県外最終処分の方針への賛同について、東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故への関心、除染や県外最終処分の方針に係る知識とは正の相関があるという研究結果(※)もあり、認知度や関心度、理解度をあげるための施策は継続的に実施していく必要があると考えられる。

### ○ 再生利用・最終処分具体化に向け、認知度・理解度の向上に加えて、社会的受容性の深化を進める必要があり、そのためのコミュニケーション内容・方法・対象等の検討が課題。

→ 技術的な検討成果の議論の状況や、事業の進捗等、フェーズや年代・地域差等も考慮した、理解醸成の在り方の検討が必要ではないか。(地域WGとの連携も重要)

→ WEB調査等を実施する際には、認知度・理解度等の推移の把握に加え、社会全体の認識がどう変化しているかなどについても、地域差や年代差も考慮しつつ、把握していくことが必要ではないか。

(※) Momo Takada, Michio Murakami, Susumu Ohnuma, Yukihide Shibata, Tetsuo Yasutaka (2024) Public Attitudes toward the Final Disposal of Radioactively Contaminated Soil Resulting from the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station Accident

## （参考）今年度の理解醸成の取組に当たっての基本的な考え方

- 戦略目標年度（2024年度（令和6年度））を迎え、国際原子力機関（IAEA）からの国際的な助言・評価等も受けつつ、再生利用や最終処分の基準、最終処分の構造や必要面積等の技術的な検討が進展。
- こうした議論の進捗も踏まえつつ、最終処分や再生利用の必要性・安全性等について、国民の皆様に分かりやすい形で、科学的根拠に基づく透明性の高い情報発信に取り組んでいく。
- 県外最終処分や再生利用に係る理解醸成の取組として効果の高い現地視察の充実や、福島や環境再生に関心を持ってもらうための情報発信に取り組む。
- 理解醸成の対象として重要な者である、次世代・自治体やメディア等に対する施策を中心に展開していく。
- 国際的な情報発信については、国際原子力機関（IAEA）・環境省専門家会合における報告書のとりまとめを踏まえ、その成果に係る国内外での情報発信に取り組む。



## (参考) 今年度の理解醸成活動計画について①

- 再生利用や最終処分の基準、最終処分の構造や必要面積等の技術的な検討の進捗も踏まえつつ、最終処分や再生利用の必要性・安全性等について、国民の皆様に分かりやすい形で、科学的根拠に基づく透明性の高い情報発信に取り組んでいく。

### <主な取組内容>

#### ■ 効果的な双方向のコミュニケーションのための取組の実施

ーR5年度のWEB調査結果では、再生利用の必要性・安全性に係る理解度の向上が引き続き課題となっており、また、対話フォーラム等の施策間の効果検証結果を踏まえると、県外最終処分や再生利用に係る理解醸成を進めるためには、より双方向のコミュニケーションが重要。このため、双方向のコミュニケーションを深めるため、CT委員の皆様のご助言もいただきつつ、車座対話の実施を検討していく。その際、対話のターゲットやテーマ、対象地域等の実施方針についても併せて検討を行う。

#### ■ SNSやWEBサイト等を通じた情報発信

ーX（旧：Twitter）等により、各WGの検討状況等に応じて、再生利用や最終処分の必要性・安全性等について、科学的根拠に基づき、一般の方に分かりやすい形、かつシェアしやすい形での投稿画像を作成の上、発信するとともに、こうした情報を環境省のWEBサイト等においても、積極的に発信していくことを検討。

#### ■ 各種イベントや広報施設における情報発信

ー福島県内外の各種イベントにおける出張展示や広報施設での展示等を通じて、再生利用や最終処分の必要性・安全性等について、科学的根拠に基づき、一般の方にわかりやすい形での情報発信を検討。

## (参考) 今年度の理解醸成活動計画について②

- 県外最終処分や再生利用に係る理解醸成の取組として効果の高い現地視察の充実や、福島や環境再生に関心を持ってもらうための情報発信に取り組む。

### <主な取組内容>

#### ■ 中間貯蔵施設や飯舘村長泥地区の環境再生事業における現地視察会の実施

- －県外最終処分や再生利用へのご理解を深めていただくため、中間貯蔵施設や飯舘村長泥地区の環境再生事業における現地視察会を継続的に実施するとともに、より多くの方に視察に来ていただけるよう、受入体制の充実についても検討する。

(参考) 中間貯蔵施設の視察対応者数…H29年度：1976名 → R5年度(2月末時点)：5209名

- －視察会等の機会を捉えて、地元の思いや文化/歴史等も伝承する取組も検討。
- －関係省庁や自治体、その他関係団体等とも連携し、切れ目のないストーリー性のある現地視察会の開催。
- －より多くの方に現地を見ていただけるよう、福島県内の主要駅からの送迎の実施やリモート見学会の実施等についても検討。

#### ■ 福島や環境再生に関心を持ってもらうための広報の実施

- －R5年度WEBアンケート結果において、県内外での県外最終処分や再生利用に係る認知度や関心度の向上が引き続き課題となっていることも踏まえ、より多くの方に福島や環境再生の取組、更には現地見学を認知してもらい、関心を持ってもらうため、交通機関、新聞、WEBメディア等の広告や、SNSの活用、インフルエンサーとの連携等による情報発信に取り組む。
- －現地見学の体験レビューを共有できる取組を検討。

## (参考) 今年度の理解醸成活動計画について③

- 理解醸成の対象として重要な者である、次世代・自治体やメディア等に対する施策を中心に展開していく。

### <主な取組内容>

#### ■ 次世代向けの広報・理解醸成の取組

- ー大学や高校等における講義、現地ワークショップを継続して開催。その際、併せて小規模の車座対話やチャレンジワードとの連携も検討。
- ー次世代会議・次世代ツアーの開催を検討。
- ー今年度のインフルエンサー企画の実施状況等も踏まえつつ、Youtuber等のインフルエンサーとの連携による情報発信を検討。

#### ■ 自治体や企業、メディア等への理解醸成等の取組の実施

- ー県外最終処分に向けた取組を始めとした環境再生の取組を知っていただくため、例えば、以下の対象に対して、中間貯蔵施設等の現地視察の実施を検討。
  - ・福島県内外の自治体
  - ・福島や環境施策に関心のある企業
  - ・国内外のメディア、国際機関・大使館等



## (参考) 今年度の理解醸成活動計画について④

- 国際的な情報発信については、IAEA・環境省専門家会合における報告書のとりまとめを踏まえ、その成果に係る国内外での情報発信に取り組む。

### <主な取組内容>

#### ■ IAEA・環境省専門家会合における報告書のとりまとめを踏まえた情報発信

ー来年度にIAEA・環境省専門家会合における統合報告書がとりまとまる予定であることを踏まえ、当該報告書の内容等について、IAEA総会をはじめとする国際会議等の機会を捉えつつ、国際的な情報発信に一層取り組む。また、一般の方に分かりやすい形で、国内にも積極的に発信していくことを検討。

#### ■ 海外の関係者等への理解醸成等の取組の実施

ー県外最終処分に向けた取組を始めとした環境再生の取組を知っていただくため、国際機関、大使館、海外のメディア等を対象に中間貯蔵施設等の現地視察の実施を検討。(再掲)